

令和 8 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特17					学校名		県立美浦特別支援学校						学校長名		鈴木 広美					
副校長名	安 伸夫					教頭名		木村 祐美						事務長名		関 俊信					
教職員数	教 諭	125	養 護 教 諭	2	栄 養 教 諭	1	常 勤 講 師	17	非常勤 講 師	3	実 習 助 手	2	寄 宿 舎 指 導 員	0	事 務 職 員	3	技 術 員 な ど	16	計	173	
児童・ 生徒数	部	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数					
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	小学部	12	4	14	7	10	4	15	10	18	8	13	14	82	47	29					
	中学部	20	6	16	12	15	12							51	30	18					
	高等部	19	15	20	17	23	10							62	42	18					

2 目指す学校像

- ◆ 自立と社会参加を目指し、児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を行い、生きる力を育成する。
- 生き生きと学び、成長できる学校
 - 互いを認め合い、尊重される学校
 - 地域から信頼される開かれた学校
 - 自信と誇りをもてる学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	- 安全・安心な学校づくりに向けて、校内巡視での気付きやヒヤリハット事例を全職員で共通理解することで、その後の事故予防につながっている。教職員の安全への意識が高まっている。スクールサポーターや消防署員と連携し、緊急時に対応できる実効性のある訓練を実施している。 7市町村の福祉課や相談支援専門員、福祉事業所と連携し、情報共有をすることで、児童生徒の支援の充実に努めている。 - 豊かな心づくりにおいて、日々、挨拶の大切さを伝え、実感できる機会を設けたり、マナーアップ運動に取り組んだりすることで、登下校時や教室移動など、様々な場面で気持ちのよい挨拶のできる児童生徒が増えている。 - 地域で輝く児童生徒の育成に向け、学校運営協議会において学校の現状や地域とともに取り組みたいことを具体的に示すことで、活発な意見交換ができ地域資源を活用した教育活動を展開することができている。 - センター的機能に関する県の2事業「地域連携協議会・研修会」を「地域連携体制構築事業」を通して、小・中学校、教育委員会の課題が明確になり、「適切な学びの場のプロセス」を確認した就学・転学、教育相談につながっている。 - 教職員のコンプライアンス意識の向上に向け、会議等で情報共有をしたり、コンプライアンスだよりを通して、一人一人が様々な事案を自分事として考えたりすることができるようにしている。 - 定時退勤日の設定、ノー会議ノーミーティングデーの設定、会議の精選・統合を行ったりすることで授業準備の時間確保に向けた働き方改革に取り組んでいる。	- 地域と連携した危機管理体制の見直しが必要である。文部科学省「安全総合支援事業」において教職員が災害について学ぶとともに児童生徒が自らの命を守ることでできる力を育む。 - 児童生徒支援に向けた学校全体の支援体制の充実（実態把握、かかわり、ケース会議など） - 生活の基本として全校児童生徒、教職員で継続して取り組みを継続する。 - 本校の課題から始まった昨年度の取り組みを継続しつつ、地域とWin-winの関係を築くことができるよう地域の方々との情報交換をとおして、児童生徒の主体的な活動を広げる。 - 本事業3年目は2事業に従来の巡回相談機能も関連づけ、支援スタイルを整えるとともに地域からニーズの高い「自立活動の充実」に取り組む。 - 教職員の不祥事0を目指す。新たな研修方法を見出し、実施する。 - 学校運営協議会など通して、本校の働き方を見直す機会とする。ICTの有効活用を共有、実践することで教職員の「ゆとり」につながる、更なる働き方改革に取り組む。
学習指導	- 全校テーマの下「個別最適な学び・協働的な学びの充実」に向け、単元構想（授業設計図）による授業デザインを活用し、楽しさに気付き、興味・関心を引き出す「算数・数学科の授業づくり」に取り組んだ。算数・数学科における見方・考え方が深めることができ、現在の授業づくりに結び付いている。 - 年間指導計画の書式について3観点で各単元の目標を設定した。教科書の頁や単元名を明記し、活用の幅が広がった。	- 授業デザインの活用した授業づくりが定着している。今後は部で設定した教科の授業づくりに取り組み、教科の見方・考え方をさらに広めていく。 - 記入内容や時間数の妥当性、授業内容の系統性について今後も検討が必要。

	・児童生徒用並びに教職員用のタブレット端末の整備が進み、調べ学習や教科指導の場面での活用が増えている。また、タブレット端末のアプリを取り入れたり、Canvaやmeetを活用したりする授業場面も増えるなど、多くの授業でICTを有効に活用することができてきている。	・タブレット端末の整備を継続して行い、授業における個別の実態に沿った活用やその他の好事例を共有し、児童生徒の「できた」「わかった」につながる効果的な活用に取り組む。
--	--	--

4 中期的目標

1	一人一人の障害の特性を把握し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の運用に係るカリキュラム・マネジメント機能を働かすことにより、児童生徒が主体的に参加し、資質・能力を伸ばすことのできる学習の充実を目指す。
2	学年、部に応じた情報提供、家庭、地域、医療、労働、福祉などの関係機関との連携協力を密に図りながら、個々の実態や進路希望に応じた就労・生活支援の充実に努め、自らが望む自立と社会参加の実現を目指す。
3	地域連携協議会や特別支援教育推進体制充実事業の運営協力、相談支援の一層の推進・学校見学会・体験学習など地域のセンター的役割を積極的に果たすとともに、関係諸機関（幼稚園、保育所、保健センター、小中学校、高等学校、教育委員会、保護者など）との連携強化とネットワークを構築し、地域から信頼される学校づくりを目指す。
4	地域住民、学校運営協議会委員などの外部意見や保護者の意見、提言などを取り入れるとともに、コミュニティ・スクールを活用した社会に開かれた教育課程を推進し、地域とともにある学校づくりを目指す。
5	教員一人一人の思いや夢、気付きを生かし、学校の設備・体制の整備・見直しを進め、健康で安全・安心な学校づくりを目指す。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 個別最適な学び・協働的な学びの充実	① 知的特別支援学校における「単元構想(授業設計図)と主体的・対話的で深い学びの授業実践ー教科の見方・考え方をおさえた授業づくりー」
	② 年間指導計画の作成、活用による評価、改善
	③ 外部専門家と連携した自立活動の充実
	④ 外部専門家や関係機関等との連携、教材共有化の推進等、授業づくりを支える学習支援の充実
2 社会に開かれた教育課程の視点に立った指導の充実	⑤ 系統性を踏まえた計画的・段階的なキャリア教育及び進路指導の推進
	⑥ 企業や関係機関等への積極的な情報発信による理解啓発と連携強化
	⑦ SDGsの取組
3 豊かな心づくりの充実	⑧ 道徳教育の充実による豊かな心の育成、気持ちのよいあいさつの励行、いじめの早期発見と対応
	⑨ 大切にされている、認められることによる自己肯定感、自己有用感の向上とお互いの個性や多様性を認めることのできる心の育成

4 地域で輝く児童生徒の育成に向けた地域社会と連携した教育活動	⑩ コミュニティ・スクールによる課題の共有と児童生徒の経験を広め、社会性を養う「新しい自立と社会参加に向けた」地域資源を活用した教育活動の推進（地域と力を合わせて協働、共創、挑戦）
	⑪ 学校間交流、地域交流、居住地校交流等の交流学习の推進
5 専門性を活かしたセンター的役割の工夫と充実	⑫ 「地域連携体制構築事業」「特別支援教育推進体制充実事業」による通学区域7市町村との課題の共有と改善、充実
	⑬ 校内外における障害のある乳幼児・児童生徒及び保護者に対する相談・支援のより一層の推進と関係機関との連携
6 安全・安心な学校体制の強化・徹底	⑭ 安全・安心、清潔な教育環境の整備
	⑮ 安全を守る地域と連携した実効性のある訓練の実施と危機管理マニュアルの見直しをはじめとする危機管理体制の充実(防災教育)
	⑯ 児童生徒及び教職員の事故防止に向けたヒヤリハット事例、改善策の共有
	⑰ 個々の摂食機能に応じた安全な食事指導の推進、食物アレルギーへの的確な対応、食育指導の推進
	⑱ 安全な通学の確保に向けたバス会社や保護者との連携
7 健康・体力の維持増進	⑲ 児童生徒が主体的に取り組む、ケガをしない丈夫な体づくり、体力づくり、保健学習の推進
	⑳ 専門家との連携、健康や安全に配慮による医療的配慮・医療的ケアを要する児童生徒の学校生活、学習支援の充実
8 信頼される学校づくりと働き方改革の推進	㉑ 服務規律の確保とコンプライアンス意識の向上
	㉒ 一人一人の Well-being を目指した働き方改革